

# 南九州・沖縄ブロック 在宅医療連携拠点事業所発表会

熊本市

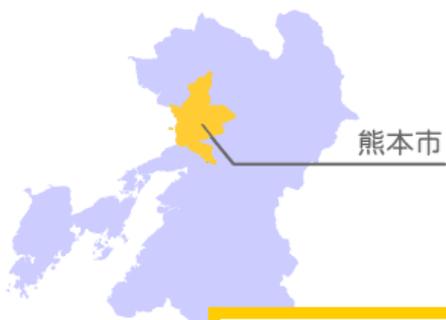
平成25年2月3日



熊本市  
Kumamoto City



# 熊本市



熊本市

- 熊本市は九州の中央、熊本県の西北部に位置
- 平成24年4月に20番目の政令指定都市

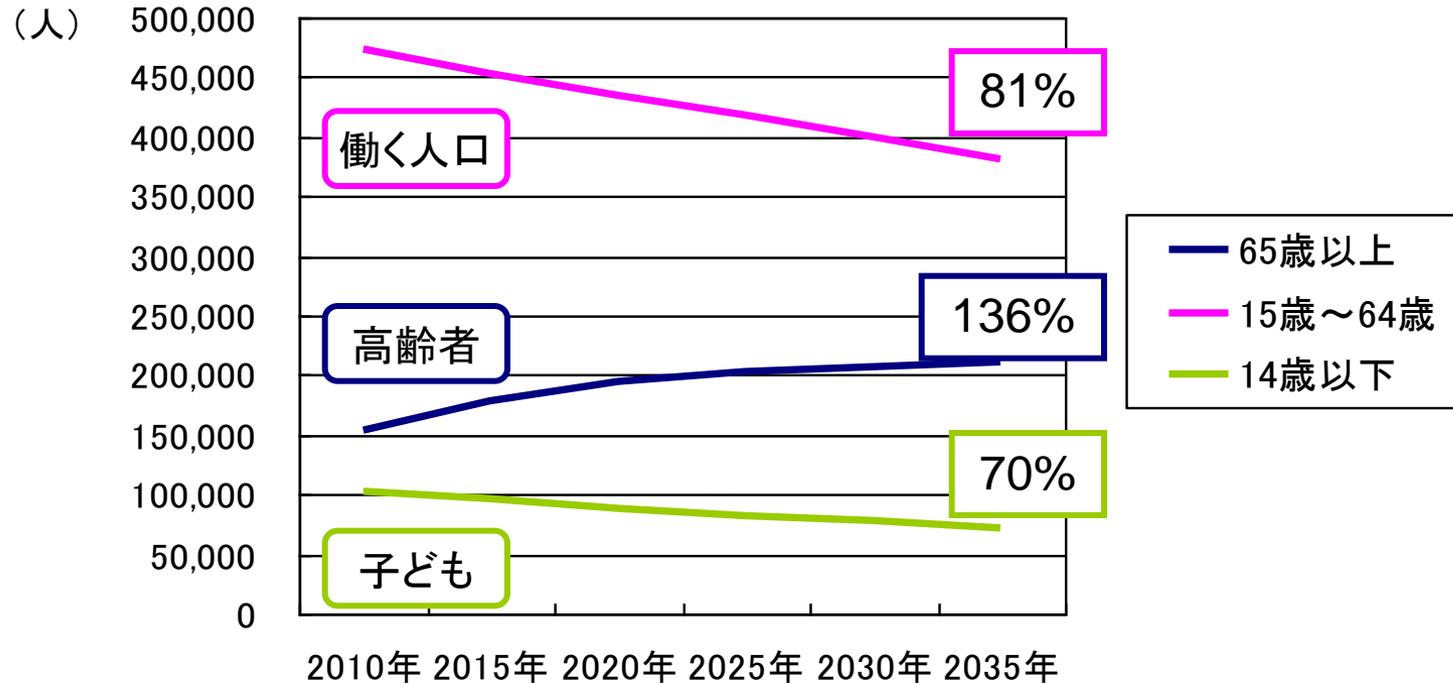


## 平成25年1月 人口

総数	733,379
65歳以上	160,074
高齢化率	21.8%



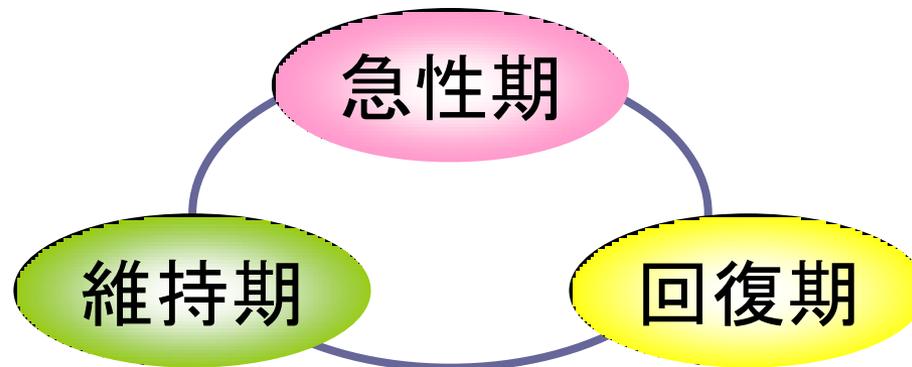
# 熊本市の人口推計



	2010年	2025年	需要増減率
高齢化率	21.2%	28.8%	—
総医療費	147百万円	167百万円	<b>13.2%</b>
総介護費	40百万円	56百万円	<b>39.4%</b>

# 恵まれた医療資源

- 政令指定都市との比較(人口あたり)  
医師数 3位  
公的病院病床数 3位
- 医療機関の機能分化と連携が進んでいる



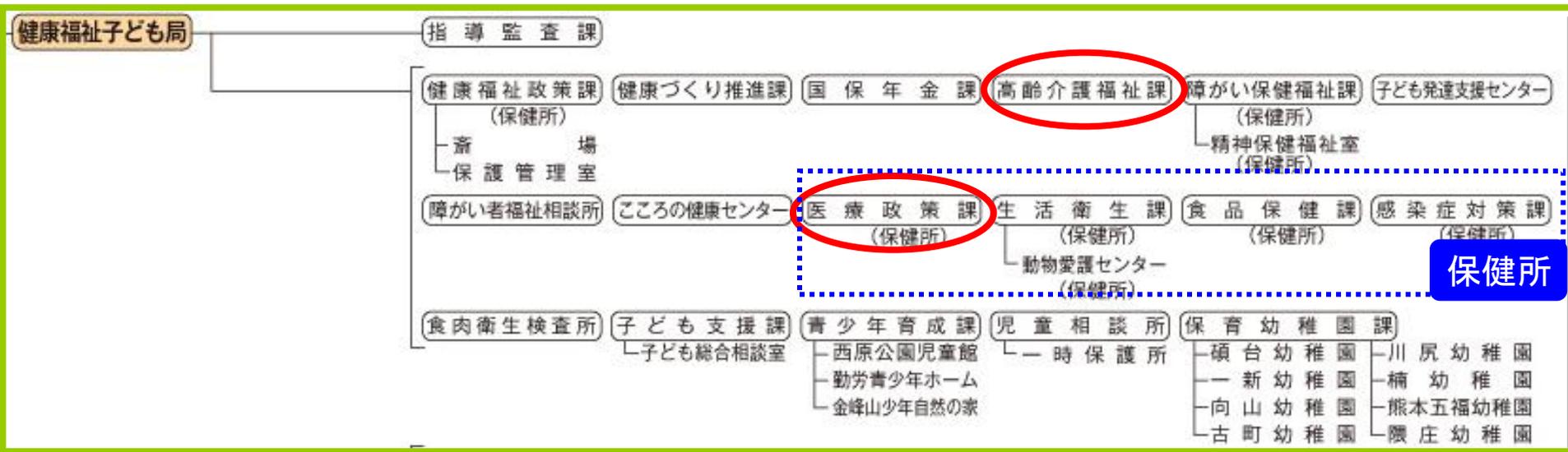
# 本市の医療・介護資源

(平成24年6月現在)

	施設数	病床数	届出状況	施設数
病院	94	15,548	在宅療養支援病院	5
診療所	641	2,210	在宅療養支援診療所	87
歯科診療所	390	6	在宅療養支援 歯科診療所	21
薬局	338	—	在宅患者訪問薬剤管 理指導料を届出ている調剤薬局	215
訪問看護 ステーション	44	—		

# 担当課

## 熊本市健康福祉子ども局



### 医療政策課

医療

- 医療政策の総合的企画及び調整に関すること。
  - 保健医療計画に関すること救急医療及び災害医療に関すること。
  - 医事及び薬事の関係法令に規定する業務に関すること(医療施設の許認可及び指導監督を含む)。
  - 難病に係る総合的企画及び調整に関すること。
- など

### 高齢介護福祉課

介護

- 高齢者に係る総合的企画及び調整に関すること。
  - 高齢者福祉に関すること
  - 老人福祉施設の設置認可、指導監督等に関すること。
  - 介護保険及び介護保険料に関すること
  - 地域包括支援センターに関すること
  - 介護サービス事業所及び介護保険施設の指定及び指導監督に関すること。
- など

# くまもと医療都市ネットワーク懇話会

- 挑戦元年アクションプラン

熊本が誇る高い医療水準や救急医療体制を活かし、熊本市内の医療関係者による「くまもと医療都市ネットワーク懇話会」を設置し先端医療都市としての魅力向上や医療サービスネットワークの構築を図ります。

- メンバー

拠点病院長、県市医師会、化血研、県・市、学識経験  
座長：市長

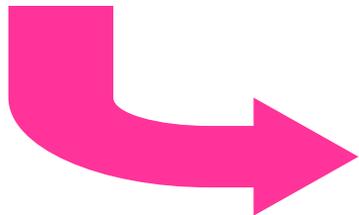
- 「くまもと医療都市2012グランドデザイン」の策定

- ・熊本市がこれから目指す10年後の医療の姿
- ・熊本市と懇話会が協力しながら推進していく

# 「くまもと医療都市2012グランドデザイン」 3本の柱

- 最先端の医療技術を発信する九州の医療拠点都市
- 機能分化と連携によって質の高い医療を提供できる都市

- 高齢者や障がい者などが住みなれた地域でいきいきと暮らせる都市



在宅医療提供体制の整備

# (3) 高齢者や障がい者などが住みなれた地域でいきいきと暮らせる都市

## 高齢者の生活を支える在宅医療・介護の推進

自宅での療養を望んでいても、介護の負担が大きいことや介護力不足などにより、自宅で終末を迎える人は1割程度。

医療と介護の連携強化 → 地域包括ケアシステムの確立

病状急変時への不安 → 医療機関のバックアップ体制の確立

高齢単身世帯などの介護力の不足 → 「サービス付き高齢者向け住宅」などの整備

きめ細やかな在宅医療・介護サービスの提供

## 患者と家族のQOLを尊重する在宅医療の推進

がんの終末期、難病、重症心身障害児などの患者の在宅療養生活は、特に濃厚な医療を必要とし、昼夜を問わず介護者への負担が大きい。

医療提供 → 24時間いつでも対応できる医療連携体制の構築

介護負担 → レスパイトやピアカウンセリングの充実

終末期 → QOLを尊重して医療を選択する考え方の醸成

医療サービスと精神的な支えの両面から生活を支援

在宅療養を望むすべての患者と家族が安心して生活できる社会

## 効果

- ・(望む人は)心身の機能が低下した高齢者・患者であっても、自宅や地域で安心して暮らせる
- ・(望む人は)がんの終末期や難病であっても、社会や家族との絆のなかで尊厳を持って生活できる

# 取り組みは3つの柱

くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会

多職種連携研修会

在宅医療・ケア支援センターの設置

# くまもと在宅医療・介護ネットワーク検討会

## 委員 8名

医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション連絡協議会、居宅介護支援事業所協議会、地域包括支援センター、在宅療養支援診療所、急性期病院連携室

## 検討内容

- 第1回 在宅医療・介護と多職種連携について
- 第2回 多職種連携における課題について
- 第3回 多職種連携における課題解決に向けた方策について
- 第4回 今後の取り組みについて(2~3月実施予定)

## ○多職種連携に関する課題

### 専門職間の連携(相互理解)

- 医師とケアマネの連携
- 病院スタッフの在宅への理解不足
- 在宅医療提供体制が脆弱

### 情報不足

- 患者の状態悪化時などの情報共有とタイムリーな連携
- 在宅医療資源の情報(薬局、歯科など)
- 患者(利用者)の在宅医療や介護に対する理解不足

### 人材不足

- 訪問看護師不足

### 急変時の対応

# 在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会

- 目的

多職種に及ぶ在宅医療・介護関係者が一堂に会し、  
「顔の見える関係」を構築することにより、連携強化を図る。

- 開催日時

平成25年1月18日(金) 19:00～21:00

- 内容

講演「実践しよう！多職種連携による在宅支援」

名刺交換

グループワーク

～多職種連携がうまくいった点、うまくいかなかった点～<sup>13</sup>

# 在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会

## 参加者 総数 158名 (市内全域から参加)

- 熊本市医師会 41名
- 鹿本郡市医師会 1名
- 下益城郡医師会 3名
- 熊本市歯科医師会 8名
- 熊本市薬剤師会 8名
- 熊本県看護協会 2名
- 熊本県栄養士会 2名
- 熊本県理学療法士協会 2名
- 熊本県作業療法士会 2名
- 熊本県MSW協会 5名
- 熊本県歯科衛生士会 2名
- 熊本市訪問看護  
ステーション連絡会 10名
- 熊本市居宅介護支援事業者  
協議会 15名
- 熊本市地域包括支援センター  
連絡協議会 12名
- 熊本県介護福祉士会 2名
- 熊本市老人福祉施設協議会 2名
- 熊本県老人保健施設協会 1名
- 急性期病院  
(医師、看護師、MSWなど) 23名
- 区役所職員 9名
- 健康福祉子ども局職員 5名
- その他 3名

# 在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会



開催にあたって副市長より挨拶



参加者同士による名刺交換会も実施

# 在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会



14班に分かれてグループワーク



活発な意見交換が行われました

# 在宅医療・介護に関わる多職種連携研修会

## ・ 今後の展開

### 全体研修会

第1回 1月18日

(内容)

事例紹介

グループワーク

～多職種連携がうまくいった点、うまくいかなかった点～

第2回 2～3月

(内容)

事例紹介

グループワーク

～多職種連携の課題解決にむけて(未定)～

区ごとに開催  
(H25年度～)

中央区

東区

西区

南区

北区

# 在宅医療・ケア支援センターの設置

## 1.在宅医療相談窓口

- ・ 患者、家族からの在宅医療に関する悩みや不安に関する相談への対応
- ・ 医療・介護関係者からの地域の医療・介護資源に関する問合せへの対応 等

## 2. 情報収集・発信

- ・ 医療資源マップ、介護資源マップの作成と情報発信 等

## 3. 多職種連携の支援

- ・ 多職種連携に関する研修会の開催
- ・ 個別職種への研修 等

## 4. 市民啓発

- ・ 在宅医療に関する公開講座の開催 等

# 1. 在宅医療相談窓口

- 主な相談内容

在宅医療に関する問合せや相談

地域の医療資源等に関する問合せ など

医療処置（点滴・吸引・胃ろうなど）  
を受けながら、自宅で療養するこ  
とはできますか？

入院中だけど、自宅  
に帰りたい・・・

薬の管理がうまくで  
きないのですが・・・

自宅で看取りたいのですが、家  
族の力になってくれるお医者さ  
んはいませんか

# 1. 在宅医療相談窓口

- 相談時間

平日の午前9時～午後5時

(但し正午から午後1時までを除く)

- 対 象

市民または 医療・介護関係者など

(いずれも熊本市内にお住まいの方)

- 相談方法 電話相談

- 電話番号 096-364-2600

## 2. 情報収集・発信



### 【在宅医療資源調査】

調査期間: 平成24年8月

対象: 病院、診療所

回答率: 病院 87%

診療所 55.2%

調査項目:

在宅医療の取り組み状況(訪問診療、往診、在宅病/診の届出、在宅で対応できる処置)など

歯科診療所および薬局については、各団体が把握している情報を入手

マッピングを行い、「在宅医療相談窓口」の基礎資料として活用

## 4. 市民啓発

### 「くまもと医療都市2012グランドデザイン」アンケート

- 調査対象

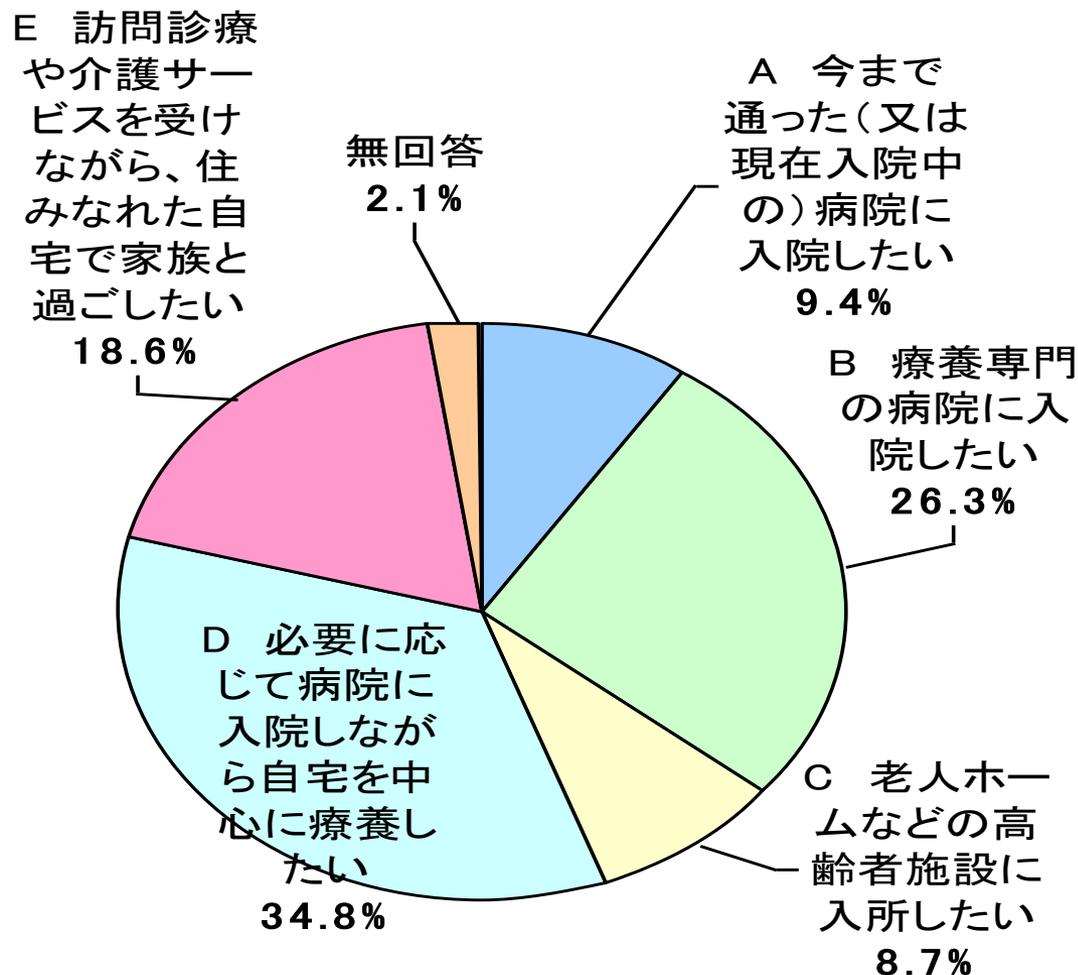
2000人市民委員会 委員 2,063名

- 調査期間：平成24年8月～平成24年10月
- 有効回収数：1,547件（回収率75.0%）

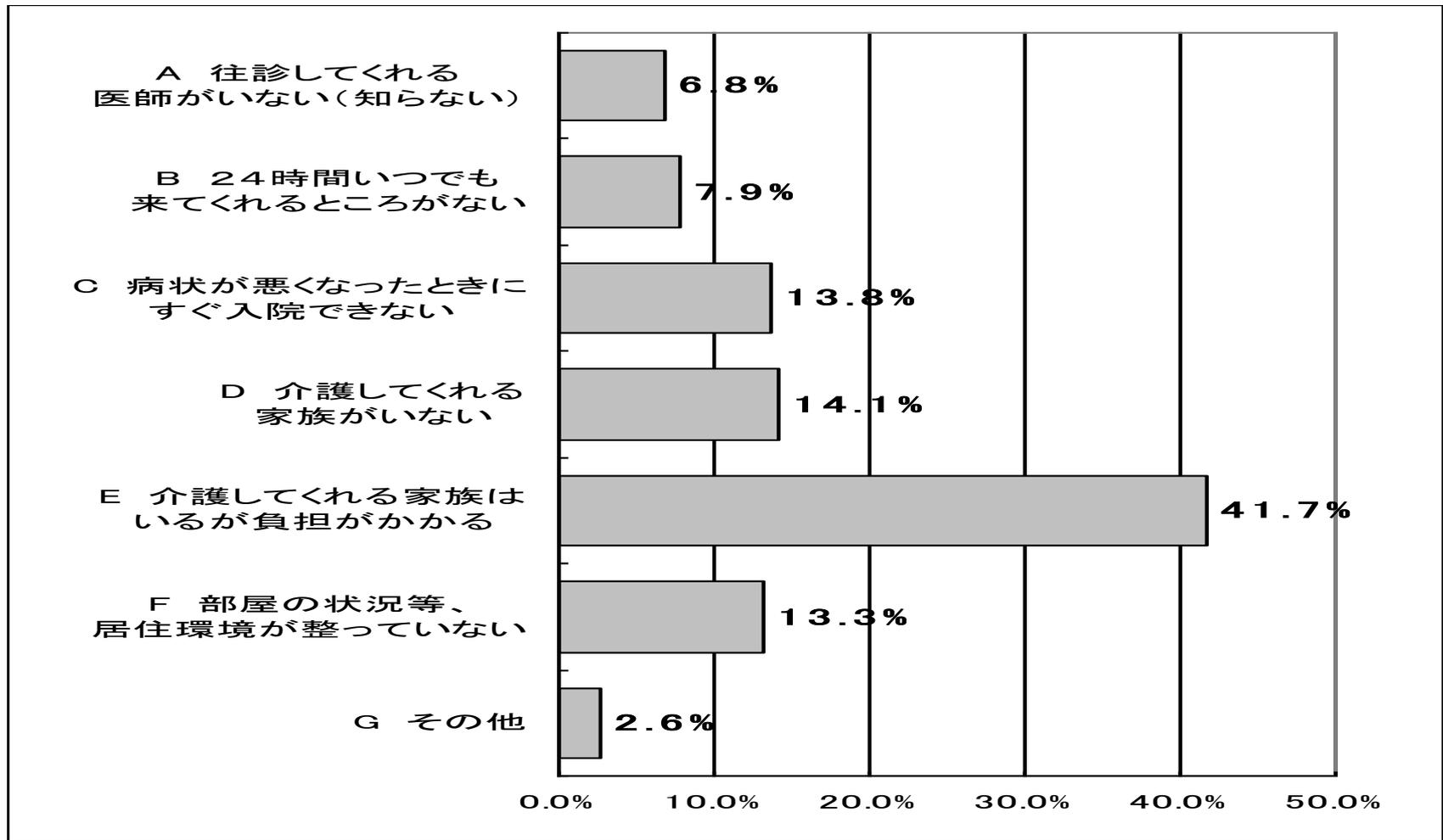
#### 2000人市民委員会

市民と市政が情報共有を深め、アンケートなどを通して市政に対するご意見・ご提言をいただくことで施策の立案などの参考にする市民参加を推進するための新たな仕組みとして設置された。

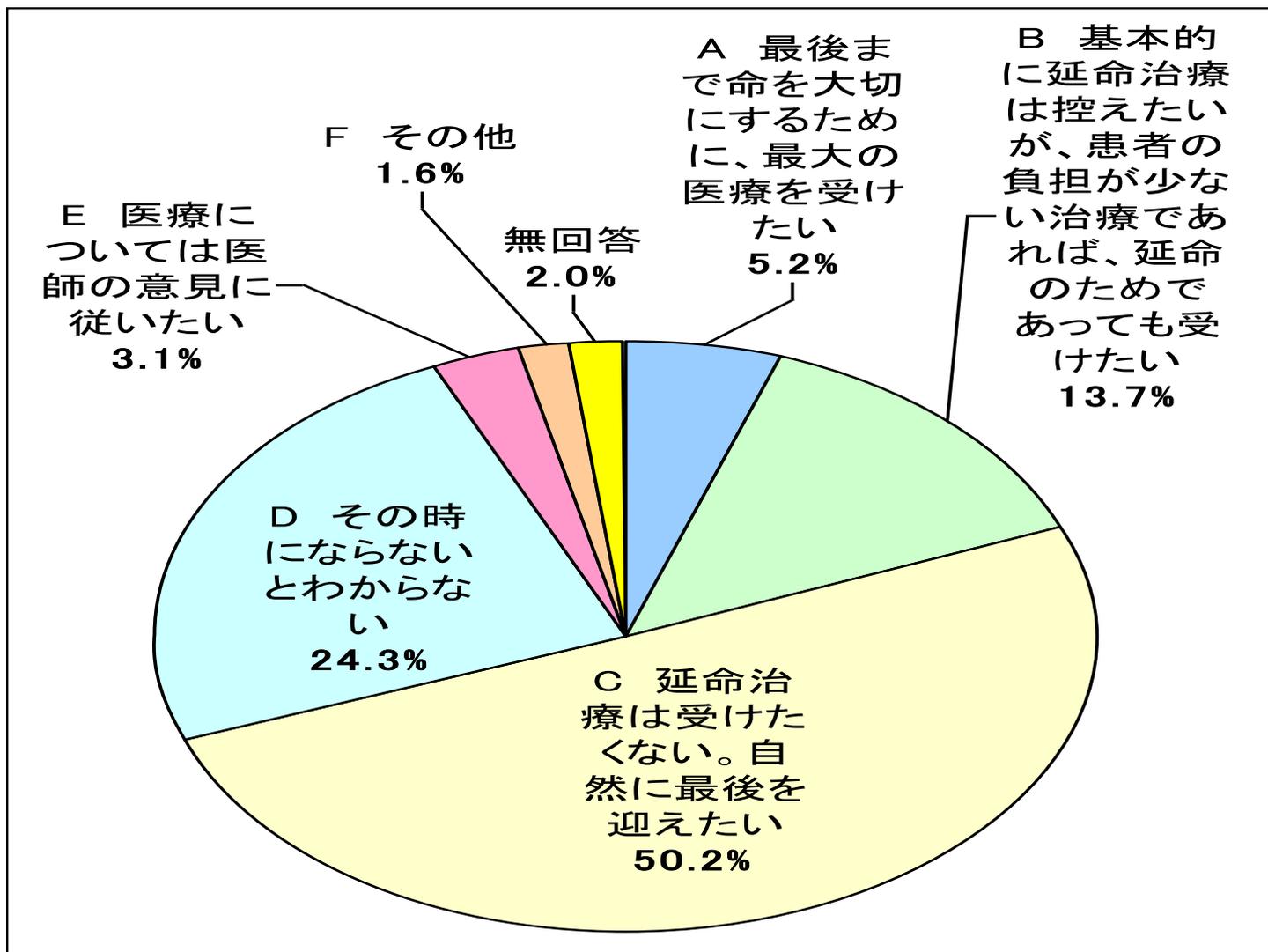
# 長期療養が必要になった時の療養場所



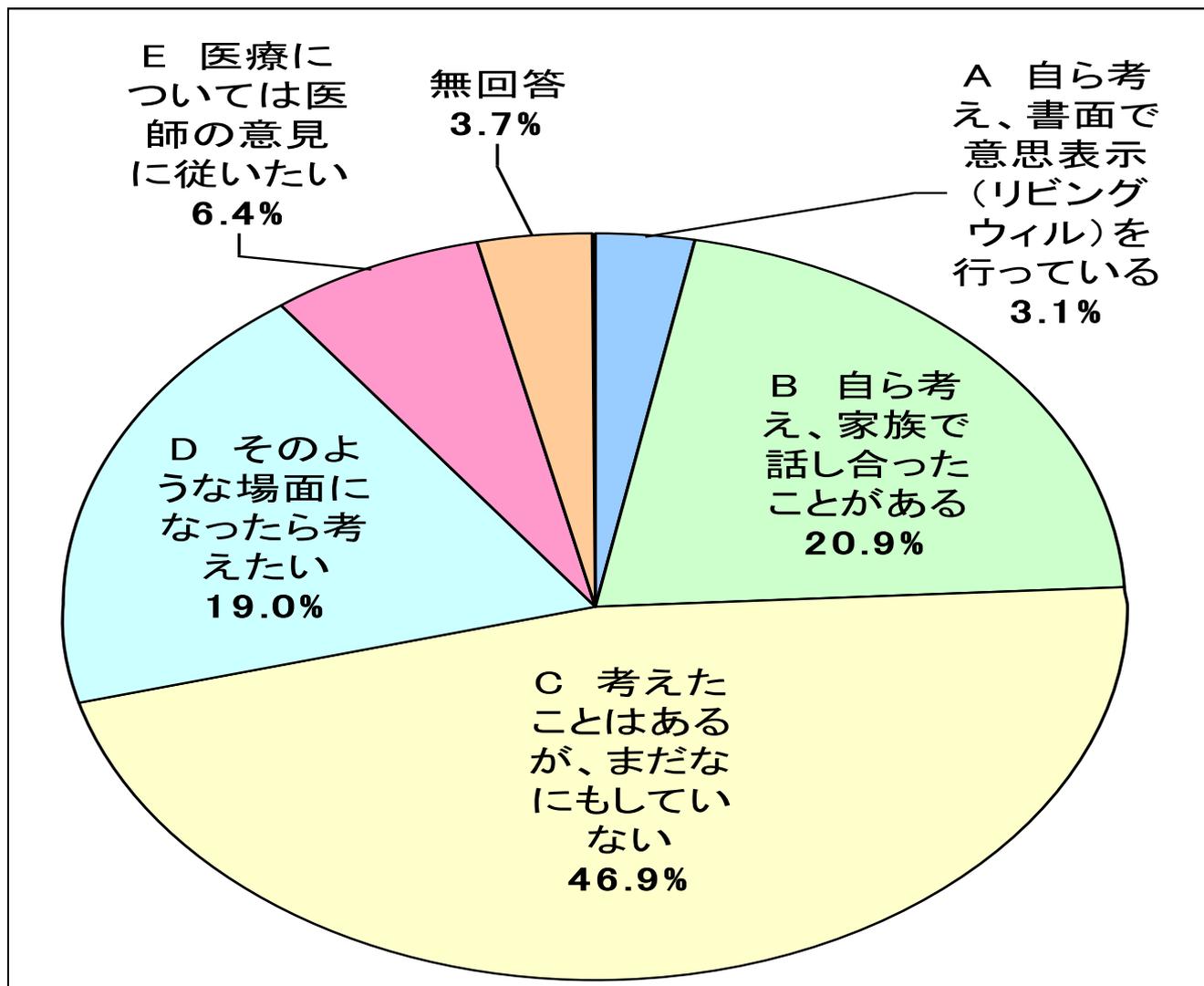
# 自宅での療養に対する不安



# 終末期にどのような医療を受けたいですか



# 終末期の医療の受け方(延命治療等)について、 日ごろから考えていますか。



## 4. 市民啓発

### ○ 市政テレビ広報番組 「興味しんしん家族」

- タイトル「在宅医療を知っていますか？」

- 放送日

平成24年12月19日(水)

午後7時53分～8時

- 内容

在宅医、家族からのコメント

訪問診療の様子



### ○ ポスター、リーフレット等の作成

# 今後の展開

## 多職種連携の支援

- 病院-在宅連携を目指す  
まずは急性期病院へアプローチ
- 多職種連携研修会を継続して開催する

## 市民啓発



熊本市  
Kumamoto City



# ま と め

- 行政は在宅医療を提供する主体ではない。
- 在宅医療の多職種連携において、行政がコーディネーター的役割を果たしていくことが求められている。
- あくまで脇役として、提供主体である多職種の円滑な連携を支援する。
- 行政も積極的に連携を図っていく必要がある。

